

広報

おやすみ

2019

8

No.175



より早く人命救助を

NEXT きらめき[★]

橋本 瑛音^{えいと} さん

(大洲ジュニアタイガース 主将)

第39回全日本学童軟式野球愛媛県大会 準優勝
(第24回高野山旗全日本学童軟式野球大会 出場決定)



大洲ジュニアタイガースは、大洲市近辺の小学生が集まる少年軟式野球チームで、2年生から6年生までの男女19人で結成されています。チームは、4月から1カ月に渡って開催された第39回全日本学童軟式野球愛媛県大会において、準優勝を収めました。惜しくも、優勝は逃しましたが、県内51チームの中で2位となり、全国大会への出場を決めました。

主将の橋本さんは、「大会では、練習の成果を発揮でき、準優勝できました。目標は優勝だったので、少し悔しかったです」と大会を振り返りました。

小学1年生から野球を始めた橋本さんは、「練習が面白いと感じるときもあります。それでも、野球は楽しいものだから、チーム全員が、元気に盛り上がるように心がけています」と話しました。

全国大会の目標を聞くと、「全国大会は、僕たち6年生にとって最後の大会になります。『打って走って守って全力プレー』の全員野球で優勝を目指したいです」と力強く決意を語りました。

8月の納税など 納期限は9月2日(月)です。

税 別	8月	9月	10月	11月
市 県 民 税	2期		3期	
固 定 資 産 税				
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	2期	3期	4期	5期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。
今年度から市県民税と固定資産税が4期納付になります。

現在の^{大洲}

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人 口	42,903人 (- 42)	件 数 34件(46件)
男	20,484人 (- 20)	死 者 0人(0人)
女	22,419人 (- 22)	負 傷 者 38人(64人)
世帯数	19,867世帯(+ 3)	

(2019年6月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	NEXTきらめき・今月の表紙
3 ページ～	犠牲者を悼み、復興を誓う
6 ページ～	おおずニュース
9 ページ～	シリーズ
12ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれ0級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと(山鳥坂鎮縄神楽保存会)

今月の表紙



大洲地区広域消防事務組合が、救助用に水上バイクを新たに導入しました。その水上バイクを用いた救助訓練が、6月28日(金)、肱川可動堰上流で行われました。

救助隊員は、溺れた人の元へ素早く移動し、水上バイクへ引き上げました。詳細は、8ページに掲載しています。

犠牲者を悼み、復興を誓う

～平成30年7月豪雨災害大洲市追悼式～



市内に甚大な被害をもたらした豪雨災害から1年を迎え、「平成30年7月豪雨災害大洲市追悼式」が、7月7日(日)、大洲市役所で執り行われました。

会場には、遺族をはじめ国・県の関係者や自治会長など92人が参列し、犠牲になられた5人（災害関連死含む）の御霊に哀悼の意を表しました。

参列者による黙とうに続き、二宮市長が「この災害により、最愛の家族を亡くされたご遺族の深い悲しみを思うと、哀惜の念に堪えません。災害防止を図り、防災・減災対策を推進し、災害に強く安心して暮らすことができるまちづくりに取り組んでいきたい」と式辞を述べました。

終わりに、参列者一人ひとりが祭壇に向け献花を行い、静かに式を閉じました。

追悼式終了後には、市民のみなさんからの献花が受け付けられ、復興への願いを新たにしていました。

追悼の辞 ※一部抜粋、敬称略



愛媛県知事 中村 時広
(代読：参与 樋口 志郎)

県では、発災直後から「地域を守る」ということは、人、生活、産業を守って初めて達成しうる」という認識を共有し、国や市町、関係機関などの連携のもと迅速な対応に努めてきました。その後も、豪雨災害からの総合的復興を目指し、被災者の中・長期的な生活サポートや、被災地に開設したサテライトオフィスを通じた産業再生支援などに力を注ぎました。

しかし、現在も多くのみなさんが仮設住宅などでの不自由な暮らしを余儀なくされているなど、被災地の復旧、復興は道半ばにあります。引き続き、被災者のみなさんに寄り添いながら、豪雨災害からの再建を成し遂げるといふ覚悟のもと、早期復興のために全力を傾けることを固く誓います。



愛媛県議会議長 西田 洋一

県議会では、1日も早い復興を成し遂げられるよう、発災直後に「平成30年7月豪雨復興支援対策本部」を設置しました。被災地を訪問し、直接意見や要望を伺って、災害からの復旧復興に関する意見書を取りまとめ、国に対して、要望の長期実現やより一層の支援について、強く要請を行うなど、被災者や被災地に寄り添いながら、最大限の支援に努めてきました。

今後とも、今回の大災害の経験と教訓を生かし、県民のみなさんが同じ悲しみや苦しみを決して繰り返すことがないよう、国、市町、関係機関などと連携し、安全安心に暮らせる災害に強い県土の実現に向け、防災・減災対策に全力を尽くすことを、本日、改めて固く誓います。



愛媛県議会議員 岡田 志郎

線状降水帯の発生など、近年の雨の降り方は、明らかに変わっています。肱川緊急治水対策の河川整備や、鹿野川ダム改造事業の完成などのハード事業による治水安全度の向上や洪水時の被害軽減は、早急な完遂が望まれます。しかし、自然災害は決してなくなるものではないと思われまます。

さらに、想定を超える大規模な洪水に対しては、まずは、何よりも自分の命を守るための避難の重要性を再認識し、住民の速やかな避難につながる防災情報の充実・強化など、ソフト面の整備も急がねばなりません。

地元議員として、改めて災害に強く、安全で安心して暮らすことのできるまちづくりに取り組んでいくことを決意します。



大洲市議会議長 押田 憲一

近年、全国各地で局地的豪雨による洪水が発生し、尊い人命が奪われ、貴重な財産が損失する事態が急増しています。残された私たちの責務は、つらく悲しい経験と記憶を、これから生きる知恵と教訓に変え、災害時の被害を最小限に抑え、犠牲者を二度と出さないよう、防災・減災対策に取り組むことです。そして、今回の大災害から1日も早く復旧復興を成し遂げ、自然豊かな美しい大洲を取り戻し、将来にわたって安心して暮らせるまちづくりを進めていかなければなりません。

市議会として、大洲市復興計画による復興事業を支援し、後世にこの素晴らしいふるさと「大洲市」を引き継ぐことができるよう、さらなる努力を尽くします。

復興に向け、市内ではイベントも



平成30年7月豪雨災害の復興イベント「えがお元気おおずの子」(主催：一般社団法人肱川流域の環境と治水を考える住民ネットワーク)が、7月6日(土)、大洲市総合福祉センターで開催されました。イベントには、市内で活動するダンスグループや、劇団などが参加し、それぞれ日々の練習の成果を発表しました。

チアダンスグループ「シャイニーズ」は、冒頭のあいさつで「昨年の7月、西日本豪雨により、私たちの住む大洲市も大変な被害に遭いました。あの日から1年。つらかった日々を乗り越え、今、私たちは未来に向かって歩いていきます。今日は、チアダンスのステージで、みなさんに『元気』、未来へ向かう『勇氣』そしてキラキラ輝く『笑顔』をお届けします」と話し、メンバー24人で元気よくダンスを披露しました。

また、幕間には、愛媛大学防災リーダークラブによる防災に関するクイズが実施され、参加した親子は、一緒に災害時における行動などを考えていました。



平成30年7月豪雨により、市内の子どもたちが活躍できる場が減ってしまいました。特に、去年の夏休みは、復旧作業に追われ、子どもたちに構ってあげることができませんでした。今回、そんな子どもたちの笑顔こそ、復興への希望の一つであると考え、子どもたちが笑顔になれる復興イベントを企画しました。

青年部として、今後は、治水や大洲のことをもっと勉強して、きちんと理解したいです。そして、その情報を、できる限りかみ砕いて、みなさんが理解できるようにお知らせします。情報を共有し、ネットワークを広げることで、肱川流域の未来をつくっていきたいと思います。



(一社)肱川流域の環境と治水を考える
住民ネットワーク青年部 部会長

古森 恭平 さん